
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 167 号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.09.22 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1373 部*****

□ 目 次 □-----

<今週の提言> 「敬老会」を「老若交流の場」に 小泉浩郎

<80 才からのメッセージ> 農地改革とマッカーサー

農民運動の下地があったから成功 原田 勉

<自著紹介> 『湖の水質保全を考えるー霞ヶ浦からの発信』 田淵俊雄

<玉川上水の謎> その 8 玉石積み 安富六郎

<戦後 60 年 新刊紹介>

「戦争への道」か、「平和への道」か われらは戦後最大の岐路に立っている。

原田 勉

<編集後記> 正直すぎるのも問題だ

<今週の提言> 「敬老会」を「老若交流の場」に

9月19日(月)、地元の集落の公民館で「敬老会」が開かれた。体調を崩している者、特老施設等に入居している者を除けば、ほぼ全員が出席した。

自治会主催であることの簡単な挨拶があり、その後、余興が始まった。ボランティアグループによるカラオケ、踊り、手品の披露、子どもたちによる勇壮な太鼓の調べ。青壮年グループは、早朝から準備し120食もの手打ちソバをふるまった。境内にある公民館は、お互いの健康を賞賛しながら拍手と笑いそして舌鼓に囲まれた。

ところで、9月19日(月)が「敬老の日」になったのは、2年前(2003)である。「国民の祝日に関する法律」の改正で、9月の第3月曜日とし3連休を大いにレジャーで楽しんでくれという国のやさしい配慮からだ。一方、慣れ親しんだ9月15日はどうなったか。別途、老人福祉法の改正により「老

人の日」となり9月15日から1週間が「老人週間」となった。本年度の標語は「みんなで築こう活力ある長寿社会」である。このことは、ほとんど知られていない。

もともと、「敬老の日」は、地方の小さな運動だった。戦後間もない1947年、兵庫県間谷村（現在の八千代町）で、35歳で初当選した門脇政夫村長が、その当選の年に提唱し実行した「としよりの日」が始まりだといわれる。

「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」と、農閑期で気候も良い9月中旬の15日を「としよりの日」と定め、敬老会を開いた。これが兵庫県全体で行われるようになり、後に全国に広がった。

高齢化によって対象者が増加した、会場がない、予算がかかるなどで「敬老会」の催しを見直す自治体が多い。わが町も役場が手を上げ自治会に丸投げして2年目だ。集落の身近な老人だから、意見を聞きながら、冒頭のように独自の敬老会を創り上げている。老人を敬うのも必要、元気な老人も大事、だが、その上に大事なことは、老若ともに結び合うことであろう。ただ、敬老会で老人をもてなし記念品を贈るだけでなく、老人の経験と技に学び、若者の活力と意欲に将来を託す、そんな1日であってほしい。兵庫県の小さな村の「敬老会」の原点に1度立ち返る必要を感じた。

小泉 浩郎

山崎農研事務局長

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<80才からのメッセージ> 農地改革とマッカーサー

農民運動の下地があったから成功

戦後60年・占領下の日本の思い出が続いている。その中に農地改革は占領軍の政策の中でも最良の改革だったとの評価がある。「占領軍は正義の味方、地主から小作地を解放させ、小作農家を自作農家にした。」「進駐軍は小作農家に大きな賜物をくれた。」などの声がある。

しかし、マッカーサーは、農地改革のプランを持っていなかった。むしろ農地改革の熱意をもっていたのは日本の農林省側だった。

大正時代初期から各地に小作争議が起こり、農民運動の高まりの中で、小作料の規制と自作農創設という二つの方策は日本農政の中で真剣に考えられていた。

昭和 20 年 10 月 10 日、松村謙三は農相就任後直ちに農地改革立案を事務当局に命じた。和田博雄を農政局長に起用し、東畑四郎農政課長とともに、小作地の強制譲渡方式による自作農創設を骨子とする法案を国会にかけた。一方、GHQ にも法案を提出、反応を待っていた。この段階でマッカーサーの側には準備はなかった。日本側が先立っていた。

シカゴ・デイリーニューズのマガuffin記者は、日本側原案をスクープして、「日本政府は、初めて驚くべきイニシアチブを示した。」と報じた。

地主出身の多い議会は積極的に通過させようはずはなかった。

この間に GHQ は農地改革のイニシアチブを奪い返すべく一週間で書き上げた。それが 12 月 9 日付で出されたマッカーサーの「農民解放令」だった。これによって議会は 12 月 15 日通過。だが GHQ はそれに OK を与えるつもりはなかった。日本側に「与える」形にするべく、本国から農地改革の専門家ラディジンスキーを呼び寄せ最終案を作らせた。

- 1, 不在地主の所有地と、在村地主の小作地は、1 町歩を除いて対象とする。
- 2, 土地所有の限度を 3 町歩とする。
- 3, 売渡しは、地主 3・自作 2・小作 5 の割合で選ばれた農地委員会によって行われる。
- 4, 実施期間は 2 年間

これによって、水田と畑、地主の物納を加えると、合計 193 万町歩、日本全体の小作地の約 80% が解放された。地主の追放はこうして達成された。

マッカーサーは、後に、日本の農地改革の成果を自讃し、「この体制は日本の農村への共産主義の進出をくい止める強力な防壁となった。」と回想し、農民にとっては「マッカーサーから与えられた」土地とし、農民の一層の保守化を強めた。

短期間に占領の成果をあげることを狙った農地改革は、日本農民の自主的土地改革運動をさえぎり、長期にわたった運動の成果を農民自身のものとするのができなかった。

革新側からは「偽りの改革」といわれ、農業経済学会でも「上からの改革」と評されている。日本農政の流れに現在も残っている「上からの改革」の原型である。

<参考文献>

『マッカーサーの二千年』 袖井林二郎・著 中央公論新社・中公文庫 1976 年刊
<http://7andy.yahoo.co.jp/books/detail?accd=31392327>

『年表 20 世紀の日本農業 日本農業年鑑 2001 年版別冊』
家の光協会 2000 年刊

『GHQ』 竹前栄治・著 岩波新書 1983 年刊 品切重版未定
<http://www.iwanami.co.jp/.BOOKS/42/9/4202320.html>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<自著紹介> 『湖の水質保全を考える―霞ヶ浦からの発信』

以前から、学生や市民向けの湖沼水質保全について出版していましたが、今回、小冊子『湖の水質保全を考える―霞ヶ浦からの発信』を発刊しました。

本書では、霞ヶ浦の水質保全の事例をベースに記述しましたが、流域の生活系、畜産系、面減系などの負荷についてはやや詳しく紹介しました。浄化槽の高度処理化や畜産、コイ養殖、多肥畑対策の必要性も強調しました。小生独自の見解も記述しましたので、従来の書とはやや違った特色があるかと思えます。

総務省の湖沼行政への政策評価や湖沼法の改正などの行政の動向や指定湖沼

の水質・負荷状況や水質保全計画についても比較検討し、記載しました。

《目次抜粋》

1. 霞ヶ浦とは
2. 霞ヶ浦の汚濁原因究明に明け暮れた時代 ～1970年代～
3. 窒素・リン規制の時代へ ～しかし改善は進まず～
4. 何故きれいにならないのか？ ～多様な多くの汚濁発生源～
5. 浄化役の森林と湿地・水田の窒素除去機能
6. 湖内にも問題山積
7. 現在の污水处理で十分か？ ～森林流出水による希釈が必要～
8. 第4期霞ヶ浦水質保全計画 ～その作成手法と内容～
9. 日本の主な湖沼の水質と水質保全計画
10. 湖沼の排出負荷と汚濁負荷 ～その大きな違い～
11. 市民活動と研究者の活動
12. 規制の流れと今後の課題

発行：技報堂出版 B6版・200頁・定価1,890円（消費税込）

<http://www.gihodoshuppan.co.jp/newbooks/index.html>

田淵 俊雄

山崎農業研究所顧問、元東京大学教授

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<玉川上水の謎> その8 玉石積み

上水路の所々に玉石積みがある。1960年（昭35）頃から水路は枯れはじめ、乾燥と崩落が進んだ。いま、法面は補修されつつあるが、まだ原型の残っている所があり、羽村、武蔵砂川、小金井付近に部分的に見ることができる。砂川では樹木、玉石積みと、底には小石のある水路となって周辺の景色とよく調和している。積まれた石の形状や大きさは場所によってやや異なり、小玉スイカ、トウガンぐらいである。工事当初のものかは不明だが、かなり古いものであろう。

その積み方は、自然積みで、規則正しい層状のもの、隙間の空かぬよう密積み状のもの、下方が四角い石に置き換わったもの、あるいはコンクリートで補

修されたものなど、様々である。分水堰のある所では、とくに美しく積まれている。

石積みの方を見つと、法面は川底までは届いていない。数十センチも宙に浮いている極端な所もある。よく持ちこたえてきたものだ。施工当時は底まであったものが、浸食による河床低下で石積みが浮き上がったのである。これは石相互の強固な接着を示と同時に長い年月を耐えた証拠でもあろう。

奥多摩には石が豊富である。道路に自然石からなる壁面をよく見かける。多くは石灰岩である。セメントはこれを焼いて作る。多摩周辺には古くから優れた石工技術があったのではなからうか。石積みには目的に応じた積み方があり、それぞれ高度の職人技を必要とする。そのなかで、難しいのは玉石積みだそう。丸石は転がりやすいので、その重心を常に考えなくてはならない。また、裏込め(*)が効かないので、壁面は不安定になる。石垣は孕みだしに弱い。基底面は崩れないことが肝心だ。石の噛合わせ、相互接着の技術、また水路底の保護は壁の耐久性に大きく影響してくるだろう。

一般の河川工事の要所には松杭や石垣が施された。その目地には昔は漆喰あるいは松ヤニを用いたと言ひ伝えられる。丸石ではとくに難しい技術を要したであろう。玉川では現在の目地にはモルタルが塗込まれている。開削当初には、どんな石の積み方をしたであろう。水路の底に小石を敷くことも石積み安定のためであろうか。そこには驚くような技術が隠されているのかも知れない。

(*石の裏側に土を押し込み、貼付きをよくする工法)

安富 六郎

山崎農研会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<戦後 60 年 新刊紹介>

「戦争への道」か、「平和への道」か われらは戦後最大の岐路に立っている。

『戦後史』中村政則・著 岩波新書 2005年7月、定価840円＋税

<http://www.iwanami.co.jp/BOOKS/43/7/4309550.html>

著者は、敗戦の年、10歳で当時のことは鮮明に記憶しており、その後の歴史

も政治・経済・外交の動きを観察してきた。こうして自分の体験を歴史叙述に盛り込むという方法で、この本を書いたという。

著者は戦後 60 年を総括して、四つの岐路をまとめている。

第 1 の最大の岐路は、講和条約、日米安保条約の締結であった。GHQ による「上からの革命」は、戦前の国家体制の全分野にわたる日本改造計画であった。社会党や共産党のお株を奪い、革新政党の革命を代行し、保守政権が長期にわたって続く基礎となった。

第 2 の岐路は、高度経済成長とベトナム戦争の時代である。貿易と資本の自由化という開放経済体制の基礎的枠組みが定着した。高度経済成長を可能にした要因は、技術革新、高い貯蓄率と間接金融、労働力、対米輸出の四つであった。これによって「歴史的勃興期」という世界の奇跡をおこした。

第 3 の岐路はオイルショックであり、外交的には沖縄返還、ニクソン・ドクトリン、日中国交回復、サミットへの参加がある。社会科学（思想・文化）は大きく変貌し始めた。「日本は貧しい国」という認識から「豊かな国」といわれ、マルクス主義のパラダイムが衰退に向かう。労働組合運動は低迷し、学生運動は沈滞し、青年や学生の保守化が急速に進んだ。

第 4 期は、冷戦体制崩壊から湾岸戦争、アフガン戦争、イラク戦争の時代である。

1991 年 12 月、ソ連最高会議がソ連邦消滅を宣言した。冷戦崩壊は世界的にみても、国内的にみても、最大の転換であった。「20 世紀システムの終焉」と同時に昭和の終わりであった。冷戦体制の崩壊から始まった世界史の地殻変動は、湾岸戦争から、2001 年の 9・11 同時多発テロに連続・飛躍して「21 世紀システム時代へと、移行したのである。

アメリカの一極支配、単独行動主義、軍事技術・兵器のハイテク化が、大義なき戦争へと発展した。これに対し日本政府の対応は、小泉首相が訪米して、ブッシュ大統領と会談。テロを根絶、米軍への後方支援する「テロ対策特別措置法」を、国会で可決・成立させた。

次いで 2003 年 6 月、有事法制関連三法を成立させ、自衛隊のイラク派遣を行

い、対米追従を深めている。あとに残っているのは憲法改正しかない。現在の日本はそこまで来ているのである。

日本の戦後はまだ終わっていない「戦後最大の岐路に立っている」というゆえんである。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<編集後記> 正直すぎるのも問題だ

先日の総選挙で、「郵政民営化に賛成だから自民党に入れた」という人は相当数いたようです。

これは、「今回の選挙は郵政民営化にイエスカノーを問う選挙である」という小泉自民党の主張（争点）にまっすぐにこたえるものです。ばか正直といえればか正直すぎます。

選挙は国会議員を選ぶもの、それは、単に1つの争点だけでなく、いまの「諸」問題をどう考えるかということのはずです。それなのに、郵政民営化にかかわる問題もわからないことだらけなのに、「郵政民営化にイエス」＝「自民党への投票」という、安直な構図が仕立て上げられました。

正直であるということが問題だという、なんともおかしな時代にわたしたちはいま生きているのかもしれませんが。あるいは全体主義の再来というべきでしょうか。

2005年9月21日

山崎農業研究所会員・田口 均

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言い

たいことを具体的に。

- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 168 号の締め切りは 10 月 3 日、発行は 10 月 6 日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 167 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://blog.mag2.com/m/log/0000014872>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2005.09.22（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

*****ここまで『電子耕』*****